

## ♡リバティタワー完成♡

## ♡記念館さよなら♡

昨年、9月に駿河台地区にリバティタワーが完成し、学生たちは新しい校舎で勉学に、クラブ活動に勤しんでいます。リバティタワーを見上げると、記念館復興の際、当クラブが大変貢献した話が思いだされた。近代的情報設備の整ったリバティタワーの完成をみると随分と様変わりした思いがします。でも、OB会活動は休眠中の状態です。定期演奏会には会長・幹事長は出席しています。又、副会長の木田氏は毎回記録を撮っています。

でも、相変わらず、観客は少なく演奏会は盛り上がりにかけるものでした。毎号、観客動員について、ご協力をお願いしているのですが、その効果はいまひとつです。

さて、OB会員から、現役の活動他活動状況を知らせてほしい。部室はどこになった等問い合わせがきております。クラブ活動については、明治大学のホームページにサークル活動の紹介があります。現役部員が作ったホームページがあります。去年からあったのですが紹介が遅れました。また、年度が変わると担当する学生が交代するので時々アクセスできない場合があります。

部室は、法学部が授業に主に使用していた10号館4階に移りました。練習は5階の練習場を使用しているそうです。また、寄附金の銘板はリバティタワーの正面右側にあります。リバティタワー23階には喫茶室もあり、眺望もすばらしいです。一度、来校してみたいかがでしょうか。是非、現役部員の応援も兼ねて地方にいるOB会員は定期演奏会に来てみてください。もちろん、首都圏に在住しているOB会員も定期演奏会に来てください。

明治大学ホームページアドレス

<http://www.meiji.ac.jp/>

## ♡お知らせ♡

名簿の発行ですが、大学のシステムの変更により名簿用原稿の様式が変更になり、今まで通りの様式では作れなくなりました。編集方法を模索中です。編集方法が決まるまで、発行は延期します。ご了承ください。

## ♡新会員紹介♡

新橋康弘 (経営学部)  
右近愛子 (政経学部)  
村田和枝 (商学部)  
糸賀淳晃 (文学部)  
早川浩子 (経営学部)  
吉田豊 (法学部)  
森田忍 (短大法)

安藤直美 (商学部)  
矢野祐子 (商学部)  
横山慎一 (商学部)  
島野賢二 (商学部)  
斉藤由紀子 (文学部)  
溝口みのり (短大法)

みなさん、よろしくお祈りします。

# ♡楠司郎氏またまた出版する♡

昭和33年卒業の楠氏が昨年10月「ハーモニカを吹こう」を出版された。CD付きです。出版社はヤマハミュージックメディアです。内容はハーモニカの種類・楽譜・持ち方・現音域と音の配列・音の出し方・呼吸法等わかりやすく書いてあります。又、明治大学カード会報「LINK TOGETHER」に私が綴る～明治大学物語～に寄稿して頂ました。裏面参照

## 現役学生から

11月20日(土)第135回定期演奏会(江戸川文化センター)です。

是非お越し下さい。お待ちしております。

## ♡会計報告♡ 1998年度(平成10年度)

平成10年度会計報告

H 11.03.31 現在

支払い	金額	収入	金額	残高
前期繰越金				1,286,404
定期演奏会祝い金	100,000	年会費	290,000	
OB会便り6号関係費	40,000	CD売上金	3,390	
紙代・送料他	5,659	賛助金	10,000	
宛て名ラベル	1,500			
CD送料	390			
名簿作成資料	2,300			
定期演奏会テープ	18,000			
129・130・131				
通信用封筒	28,770			
支払い手数料	3,550			
支出合計	200,619	収入合計	303,390	
		当期繰越金		1,389,175

※お願い：年会費納入者が急激に減っています。ご協力をお願いします。

卒業生ひとりひとりが青春を謳歌したそれぞれの〈明治大学物語〉。

今回は 体育会硬式野球部OBの竹内俊也氏と

ハーマニカ ソサエティOBの楠司郎氏に綴っていただきました。

## 「一本のハーマニカからはじまった青春」

文 楠 司郎

●'58年商学部卒



それは縁故疎開先での一本のハーマニカからはじまった。明治大学ハーマニカ・ソサエティでの4年間につながらず子供の頃のちよつとした出来事。

昭和16年、国民学校入学、学制改革による新しい呼称での、1年生の誕生である。そして終戦、22年には6・3・3制の採用で、新制中学校の第一期入学となった。

食物にも不自由な時代、しかし元気に明るく、よく学び、よく遊んだ思い出が脳裏に焼き付いている。ご同輩如何なりや。

荒んだ世の中に、心む音楽を、美術を。こんな世代に出会ったのは、筆筒の抜き出しにあった叔父の大事なビッカピカのハーマニカ、それは外国製だったと思う。舶来品である。家の者にバレないように、黙って持ち出してはアカアカ、訳の分からぬ「ふし」を吹いていた。練習場所にも困り果て、とうとうトイレ、俗に言う「曹廬」である。

ここからが、我がハーマニカ人生のはじまりである。遠足・学芸会など、人の集まる所では必ず吹かされた。中学・高校も部活で吹きまくっていた。コンクール

6年間続け

への参加も。そんなある日、明大OB（ハーマニカ・ソサエティ）の方からソサエティの存在を知らされ、勧誘を受けた。願ったり叶ったりで明治大学入学、いや、明治大学ハーマニカ・ソサエティ入学（入部）したようなものであった。

優さ男、強面の先輩諸氏に混じって1年生から物怖じするほどなく活躍できたと思っっている。その環境をつくってく頂い

た諸先輩には、今でも頭が上がらない。想い出の一つに、恒例となった越後湯沢（新潟県）の合宿がある。早春、残雪のある宿泊研修である。酒の味を覚えたのもこの合宿、毎年新入生が潰されていたの思い出す。

朝から晩までの練習を終えて、よりまどまった部活に発展していった。練習にも全員、目的意識を以って取り組んでいた。春、秋2回の定期演奏会・全日本学生ハーマニカコンクールのエントリーなど、準備する曲数も大変な分量であった。先輩の築いた財産を受け継ぎ、より大きく育て、コンクールに於いては、質と量

（部員数）で他校を圧倒、毎回「優勝」と云う二文字を頂いた。優勝曲のレコーディングが、これ又、大変だった。NHKのスタジオ（内幸町）での一発どりだ。今の様なデジタル録音ではない。ミスをするとはじめからやり直し、緊張すればするほどノイズが入ってしまう。ミスは、必ず連鎖反応を起こすのである。次つぎと他人に移って行くので始末が悪い。深呼吸、当って碎けるまで、やうとOK、すでに全員グロッキー、指揮者石川登先輩

（故人）お疲れ様でした。合掌。一方、定期演奏会、これは昼夜2回の興行？ ゲストもプロも歌い手を毎回お呼びして演出をあれこれ考えたものだ。

もうひとつ楽しみにしていたものがあつた。地方巡業である。関西・九州方面が多かつたがよい経験をしたと思っっている。

野球人気に便乗しての「6大学ジャズ・リーグ」がそれだ。ステイジを共にした面々の中には、今もプロ・ミュージシャンとして、第一線で活躍している人も多い。ジャズ・リーグの会場は、確か松竹系の映画館として記憶している。

興行は映画との抱き合わせである。行く先ぎの会場は、どこも超満員、若者で溢れていた。世はまさにジャズブーム、ジャズ真つ盛りの日本、ダンスホール華やかなりし頃であった。音楽を通じ、学生時代に得た教訓、財産は、今も生きている。「会わせる喜び」を知り、人の和の大切さを教えられた。

一人では何もできない。お世話になつた多くの方々、同じ釜の飯を食った仲間、すべての人に感謝したい。ありがとう。そして我が母校、お、明治、ありがとう。

平成11年度の会費納入を8

年会費は5000円です。同封の振込用紙を使用してください。振込手数料が無料になります。